

## 平成 30 年度 第 3 回酒田市総合教育会議（平成 31 年 3 月 2 6 日）議事録

### 1 開会

#### （菅原教育部長）

それでは皆様お揃いになりましたので、これより平成 30 年度第 3 回酒田市総合教育会議を開会いたします。

本日の会議の進行を務めさせていただきます教育部長の菅原でございます。どうぞよろしくをお願いいたします

本日、2 名の方から傍聴の申し出をいただいておりますのでご報告申し上げます。本日の資料につきましては、傍聴者の方へ配布させていただくこととします。

最初に、丸山市長からごあいさつをお願い致します。

### 2 あいさつ

#### 【丸山市長あいさつ】

教育委員の皆様、本当にお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。開会に先立ちまして、今年度第 3 回目になりますが、日程がずれたりして大変申し訳ないと思っておりますけれども、総合教育会議をはじめさせて頂きたいと思えます。トータルで言いますと発足から 11 回目という事だそうでございます。これまでもいろいろなテーマで皆様からご意見を頂いてきたところでございました。私も市政の運営にあたっては、教育、文化、スポーツも含めてですけれども、教育に関わる施策というのは、市の中でもやはり最重要事項だというふうに捉えて、ずっと予算とか施策を考える上でも力を入れてきた部分でございますので、そういう意味では、この総合教育会議の重みは大きいものがあるというふうに考えております。

そういった中で、今年さまざまな事があったかなと思います。振り返りますと、酒田市の教育委員会ではなかったですけれども、光陵高校の工業科の件ですとか、あるいは小中一貫校の件、今日これから県の方で発表あるようですけれども中高一貫教育校の件ですとか、例えば小学校、中学校へのエアコンの設置の件だとか、本当に多くの課題が教育行政に関わってあったのかなとこのように思っておりますけれども、年度が終わるにあたって、子どもたちは少なくなってきましたけれども、これからもどんどん誕生してこの地域を担って頂く大事な存在ですから、引き続き教育行政については教育委員の皆様から力添えを賜りますよう、よろしくお願いを申し上げたいと思えます。

さて、本日の総合教育会議の協議テーマでございますけれども、大きく 2 つ準備をさせて頂いております。1 つは、本市の小中一貫教育の取組みということでございます。これにつきましては、2 年前から酒田市にマッチした小中一貫教育の在り方を検討させて頂いているところでございます。ようやく新年度から、リード校を定めてより具体的な取組みを進める予定と伺っております。そういったことで、まずは 1 度ここで取りまとめの協議をさせて頂

きながら、今後の課題や対応などについて皆様からご意見を頂きたいと思っておるところでございます。

それから、2つ目の協議題であります、本市のスポーツの振興についてであります。このスポーツの振興は、教育の観点、教育委員会の所管という事だけではなくて、市民の健康づくり、これは心身共にということになりますけれども、健康づくりという点から言えば、市長部局の中でも健康課という課もございますし、地域づくりという側面の要素も持っている訳でございます、そういった意味では非常に広範な範囲を占める重要なテーマでございます。そういった意味で、本市のスポーツの振興についてということテーマの1つにもあげさせて頂いたところでございます。このスポーツの推進につきましては、新しい酒田市のスポーツ推進計画、これが策定をされるところであります。ほとんどできあがっているので、来年度計画に従ってスポーツ振興を図っていくという状況になっている訳でございますが、今後、スポーツ振興について、特に学校教育、あるいは社会教育、更には健康づくりという観点で、どのように進めていったらいいのか、更には様々なスポーツイベントを通して交流人口を増やすということ。それがまた地域の発展にも繋がるということで、スポーツイベントの在り方をどうしたらいいのかですとか、もっと具体的に言うと、例えば酒田市にはアランマーレというバレーボールのチームがありますけれども、そのアランマーレなどの地元のチームの支援体制をどうするのかですとか、あるいは、個人ではありますけれども中日に入った石垣選手だとか、あるいは大相撲に入った北の若とかですね、いろいろ地域のスポーツ振興の面で盛り上がり繋がるような良い話題があるのもまた酒田でございますので、そういったところも含めて今後スポーツ振興をどうしたらいいのか、それから来年度の施策、新年度の施策でありますけれども、スポーツ施設をどうしたらいいのか、どういうふうに考えていったらいいのかという施設の在り方、プラン作りを新年度取り組む予定にしております。かなり施設自体が老朽化しているものが増えてきているということ、施設がやはり老朽化しますと、そこに大きなイベントを呼び込むということがなかなかできなくなりますし、やはりスポーツ施設を今後どうしたらいいのかということもこれから市政運営の大きな課題、テーマになっていくだろうとこのように思っておりますので、そういった点も含めて皆様からご意見を頂ければなと思っております。

午前中、限られた時間ではありますけれども、みなさん活発なご意見をお聞かせいただければ、ありがたいと思っております。

結びになりますけれども、本日ご出席いただいております浅井委員が3月31日をもって、教育委員任期を満了して退任ということでございます。浅井委員におかれましては、私から言いますと浅井先生が教育委員会にいらっしゃったころから、酒田市の教育行政には指導主事であいらっしゃったころからずっと関わって頂いて、教育委員としても6年余り、長きに渡って教育委員をお勤め頂いたということで、心から感謝を申し上げますし、退任された後も引き続き酒田市の教育行政の方を見守って頂いて、必要に応じてアドバイスなどを頂けるとありがたいなとこのように考えているところでございます。改めて感謝申し上げますごあいさつにかえさせていただきます。本日もよろしくお願い致します。

#### (菅原教育部長)

ありがとうございました。続きまして、村上教育長からごあいさつをお願いいたします。

## 【村上教育長あいさつ】

改めまして、おはようございます。只今、市長の方からご挨拶を頂戴いたしましたけれども、毎回総合教育会議において、市長の方から非常に大切なテーマを取り上げていただいております。単なる会議に終わらず様々な施策に具体的に反映していくという、実質的な側面も保持しつつ開催して頂いていることに改めて感謝申し上げたいと思います。今日のテーマについてですけれども、最初、小中一貫教育を取り上げて頂いた訳ですけれども、これも非常に私どもにとって大切な方針でありますので、この機会に捉えて頂いたことを非常に良かったなというふうに思っているところであります。平成 32 年度から今後 10 年間の教育の方針を定めます本市の教育振興の基本計画、31 年度に取りかかって正式に作って、32 年度の実施ですけれども、その基本計画の中に、学校教育関係の最重要方針の 1 つとしてこの小中一貫教育を取り上げたいというふうに考えているところで、このタイミングで話題にして頂けるのは本当にありがたいと思います。若干だけ国の動きですけれども、小学校の先生方が完全に準拠する小学校学習指導要領、その学習指導要領の巻末には中学校の学習指導要領の全文が掲載されております。一方、中学校の学習指導要領の巻末には、小学校の学習指導要領の全文が掲載されております。日々の授業は、その学習指導要領に基づいて行われるんですけれども、国の施策でも示している通り、小中間でお互いどのような姿に将来なっていくのか、あるいはどのような教育を受けて今ここにきているのかということの連携の重要性が非常に言われておまして、全国でも 400~500 程度の一貫の取組みが見られているところでございますが、平成 28 年度の意向調査によりますと、全国の自治体の半分くらいの自治体が入り入れてみたい、又は関心があるというふうにアンケートでは示しているところでございます。しかしながら、私も小中一貫全国サミットに数年連続して参加させて頂いておりますと、非常にやり方がバラエティに富んでおります。これはなぜかということ、小中一貫の目的は何かということがですね、それぞれの自治体でそれぞれの目的を掲げているということなんです。つまり、小中一貫は手段に過ぎなくて、では酒田市のそれに取り組む目的はいったい何なのかということをお今日説明するいい機会にもなるのかなというふうにも考えているところでございます。もう一つ、スポーツについての話題でございますけれども、まずは教育委員会にスポーツ振興課が再移管となりました。この時のミッションというのは、これまで地域を活性化するためのスポーツということが一方であり、それが一定程度の成果を上げた時点で、市民 1 人 1 人にとってスポーツはどのようにあればいいか、ということをお広く議論できる場にして頂いて、今回の推進計画の策定になっているのかなというふうに思う訳です。そういう面で、誰が、いつ、どこで、どういう形でスポーツに参加できるのか、そういったようなことが十分議論されてきましたし、そのことについても今日取り上げて頂けるのであれば、これ幸いだなというふうに思っているところでございます。少々長くて恐縮でございましたけれども、どちらも大切なテーマを取り上げて頂いたことに改めて感謝申し上げます。挨拶にかえたいと思います。ありがとうございました。どうぞよろしくお願い致します。

### 3 協議

#### (1) 本市の教育を取り巻く諸課題について

##### (菅原教育部長)

ありがとうございました。

それでは、これより協議事項に入ります。ここからは、市長に座長をお願いいたします。発言の際には、皆さまは座ったままでお願い致します。

##### (丸山市長)

それでは、協議事項(1)本市の教育を取り巻く諸課題について、初めに小中一貫教育の取組みについて意見交換をさせて頂ければと思います。おそらく、小中一貫教育の関係について言えば、教育委員の皆様はこれまでも様々議論する機会があったでございましょうし、たぶん私が一番頭の中では理解があまり深まっていない立場なのではないかなという感じですので、頭の整理も兼ねて学校教育課長から資料に沿って説明をお願いした上で、少し皆さんの意見をお聞かせいただければなと思っております。

#### 齋藤学校教育課長が資料1を説明

##### (丸山市長)

ありがとうございました。ざっくりとした説明をさせて頂きました。このあたりは、教育委員の皆様はだいたい頭に入っているという理解でよろしいんですかね。今の学校教育課長の説明に対して何かご質問とかございましたら、資料を見ながら、結構やるべきこと非常に大きなことが盛り込まれているんですけども、1枚に整理するとこういうふうになるということで、非常に重要な取組みであるという事を踏まえて、32年度以降の教育振興基本計画にもしっかり中心に盛り込むという事ですよ。そして、31年度はまずリード校を定めて、具体化に向けた道筋をその中で探りながら、32年度の研究委嘱という話がありましたけれども、実際にやれるところに取組みを進めてもらうという理解でいいんでしょうかね。32年度から小中一貫教育が実際に動き出すという理解でよろしいんでしょうか。

##### (学校教育課長)

はい。

##### (丸山市長)

どうでしょうか浅井委員。ご自身も教員としての経験が豊富ですし。

### (浅井委員)

32年度から順次入っていくという言葉をお使いになりましたけれども、リード校の他の学校については一斉に教育を進めていくのか、それとも学区ごとに順番にやっていくのかというそこまではまだ検討してませんか。

### (学校教育課長)

今現在、実は中学校区の方に次年度31年度から準備期間に入りたい学校という事で、希望を取っているところがございます。各中学校区頑張ってもらって、かなり次年度から準備に入りたいという要望を持っていることは伺えます。それで、31年度以降でございますが、なかなか市の場合につきましては、小学校区が重なっている学区もあります。これが1つの課題になっておりますけれども、その中で、小中学校区、どのような工夫をしながら、これを推進していけばよいかというその検討の時間だとか、計画づくりの時間に少し時間を要する中学校区も想定しています。その中で、基本31年度準備として、31年度・32年度と2年間かけて準備、計画の必要な学区も出てこようかと思えます。基本的には、32年度から研究はスタートします。32・33・34、このあたりを目処に全中学校区で推進していけるように進めてまいりたいというねらいを持っています。

### (丸山市長)

中学校区が全て小学校区イコールになってないというのは、これは結構大変ですよ。

他にありませんか。皆さんいわゆる専門分野ですので、遠慮なくお話を、皆さんのお話を聞いて私も理解をしていこうかなと思って、今日この場に臨みましたので、是非お話を聞かせて頂ければと思います。神田委員どうでしょうか。

### (神田委員)

今回、このような形で学校生活における課題と、学級における課題というものが明確になってきている訳ですけども、こうした問題を解決していく上では、連携であるとか情報共有というものが必要になってくると思います。それぞれの児童、生徒の特性について理解をしていけば、これが小学校から中学校に引き継がれていけば、うまくサポートできる部分もあるでしょうし、小学校の段階で、どこで躓きやすいのかそういうことがわかった上で、中学校で授業するということができれば、躓きに対して丁寧なフォローというものができると思いますので、いわゆる中1ギャップといわれるような問題も防ぐことができると思いますし、ここに記載されているような問題の解決にも繋がるのではないかと期待されます。今回の説明の中でも、小中一貫といいますのは、目的が様々でありまして、目的に応じて行っている取組みも様々であるというような状況でありますので、何を行うのかという事について、この教育委員会として具体的にこれと、これと、これと、という事を定めるのではなくて、各中学校区の中で検討をして頂くのがよいのではないかと考えております。あとは、今回ですと小中一貫のやり方として、施設が一体的に同じところに小学校と中学校が

あるような形での運営方法もありますし、近接型もありますけれども、今回は小学校と中学校が分離してしまっていて、かつ、中学校が1つに対して小学校が複数という一体化の関わりになってきますので、なかなか難しいパターンになってくるのかなというようなことがあります。そういった状況の中で、例えば生徒と児童が一体になって何か行事をやるとかということになりますと、どうやって移動するのかというような問題も発生してきますので、頻繁にお互いが移動して何かをするというのは、現実的にはそういうことはできないのかな。むしろ先ほどありました通り、めざす子ども像とといいますか、9年かけた教育でどういう子どもたちを輩出していきたいのか、育てていきたいのかという事を明確にした上で、しっかりと教育していくための教育課程の編成をしていくというところが、一番になってくるのではないかと考えております。現在ですと、小学校と中学校でそれぞれ教育目標というものを設定して、カリキュラムマネジメントを行いながら、それぞれの授業を通してどうやって育てていくかということを考えていますけれども、9年一貫教育目標を設定することができるとですね、システムをたてた教育が可能になってくると思います。その中の1つの例としては、ふるさと教育があると思いますが、総合的な学級の時間を活用して、ふるさと教育を行っておりますけれども、何を教えるのかということも小学校と中学校の9年間のスパンで、小学校3年生から始まりますけれども、長いスパンで考えると、だんだんと深めていくというやり方もあるでしょうし、広がりを持たせるということでもよろしいですが、システムを立てた教育ができるのではないかとするような期待をしているところでございます。あとは、これを進めていく上では連絡調整がどうしても忙しくなってくるので、一般的には一貫教育コーディネーターという役割の方を設置して、小中の中での連絡調整をするというような形になるようですので、そういった役割の方をどういうふうにして置くのか、ということが課題になってくると思います。あとは、教育改善を行っていくにあたっては、例えば中学校の先生が、小学校に入ってきて、小学校の先生と一緒に教えるというようなことを行いますと、中学校の先生は教科の専門性がありますから、どうやって教えたらいいかということについて、より様々なアイデアをお持ちの可能性もあると思いますし、また一方で、小学校ではどのくらい丁寧に教えているのかということを見るチャンスにもなってくると思いますので、そういった乗入授業なんていうのも是非進めて頂きたいと思っています。ただ、乗入授業を行ってしまいますと、中学校から小学校に行けば、中学校の先生がいなくなってしまう訳ですから、その分の中学校の授業をどうするのかという話が出てくるので、そこで代わりに授業をする先生がいけないとできないというようなこともあります。そのあたりは、後補充の先生をどうやって配置するかとか、先ほどの一貫教育コーディネーターをどうやって配置するかとか、なかなかそういうこともなく、頑張ってくださいということになると、先生方も大変お忙しい状況になってしまうと思いますので、人の面でできればご協力、サポートして、先生方の負担があまり高まりすぎないような状況の中で議論が進められると良いのかなというふうに考えておりますので、是非中学校区の主体性といいますか、そこに任せつつ、お金の面でサポートができる形が取れると良いのかなと考えました。

### (丸山市長)

ありがとうございました。今、神田委員から課題などを指摘して頂きましたけれども、今お話の中にありました教育コーディネーターですとか、あるいは乗入授業なんかで先生が足りなくなった場合とか、これは酒田市教育委員会が独自でやらなければいけないものなんでしょうかね。県費教員という立場があるわけなんですけど。山形県の教育委員会の定数みたいなものがあると思いますが、それから逸脱して酒田市教育委員会だけでこの制度を進める上で、人事的な体制の整理もしなければいけないわけでしょうか。そうすると、今も教育支援員などは独自に配置はしている訳ですけども、財政的にもつのかなというのちょっと気になってくる場所ですけどもどうなんですかね。

### (村上教育長)

今、人的な支援というのどこまでできるかというのは非常に大切なポイントになってくるのかなと思います。それで、いわゆる県費負担の方でどこまでできるかというのは、県に対する要望、例えばコミュニティスクールをやろうとすれば、そのコーディネーター役が必要であるとかですね、そういった大きな事業をする場合のコーディネーター役となる人の配置、加配という形でですね定数に加えて、取り込めないかということにつきましては、国がこういった制度を応援しているということもあって、要望としてはしていきたい内容なんですけれども、制度が完成されていて、すぐ降りてくるかというとなかなか難しい部分もございます。このペーパーで言うと、共通検討内容2の組織の構築、このところを十分検討していかなければならないのかなと思っております。他の自治体の取組みでは、こういったことを応援する自治体もありまして、先ほどありましたように中学校英語の先生が小学校の外国語活動の英語に行っている場合そこをどうするかというようなことについて、自治体がといいますか、県レベル、あるいは市レベルでサポートするというふうを取っているところもあるんです。ただ、あまりにも大きな費用になってしまいますと、負担増になりますので、そこは一定程度のことしかできない。中学校の先生方というのは、いわゆる授業に出ている時間と、授業以外の時間というのがあります、小学校はほとんど毎時間出てる訳ですけども、中学校はやや授業準備の時間として取られてるんですけども、そういった時間に一定程度小学校に出向いていくといったことを可能にしている。中学校の先生が忙しくなるという場合の方が、どちらかというとなくなるのかなと思います。ここは大きな課題ですので、あらゆる教科でそういうことをしてしまいますと難しくなったりします。恒常的にそれをやりますと難しくなったりします。やはり、サジェスションをする機会を研究的に捉えて交流していくというようなことは必要になってくるのかなと思います。この多忙化の問題は、合わせて十分検討しなければならないと思います。

### (丸山市長)

神田委員のお話の中で、中学校区で主体性を持って欲しいとありました。中学校、酒田の場合は7つそれぞれの校長先生の学校の経営方針というものがあって、小中一貫教育につい

ても、それぞれの考え方でやる。そのやり方として、最低限のルールというか、最低限の基本原則みたいなものは教育委員会の方で定めるということになると思うんですけども、どこからどこまでが基本ルールで、どこからどこまでが校長の裁量でやるのかというのが、ちょっと私どもわからないところもあるんですけども、近接型だとか一体型だとかのやり方はあるにしても、酒田市の教育委員会としては一体型はしないだとかいうことも含めて、それはこれから決めていくという理解でいいんですか。

### (村上教育長)

そうですね。まず最初の校長の教育課程編成の自主性というのは、基本的には各学校の自主性を邪魔しないようにしていきたいなというふうに思っているわけです。そもそも、小学校は小学校で学力を向上させたいわけです。小中一貫が無ければ学力向上があり得ないかというとなんなわけではなくて、それぞれの小学校・中学校でなんとか学力を向上させようとしているんです。生徒指導も一貫を除いても独自に校長がそれぞれの学校において発達させようとしている。しかしながら、一貫性を持たせることによってより効果的な部分が出てくるわけです。そこのところは調整して一緒にやりましょうということなんですね。ですから、学力向上は一貫教育が始まるから全部教育委員会サイドからやり方から含めて指示されるんじゃないかというのは、私としてはそういうつもりはなくてですね、例えば、第四中学校ですと、今生徒指導と学習指導の両面で実践している例があります。それは、子どもの話し合い活動の重視というスタイルなんですね。これは、川南の小学校と四中が同時にスタートしている方向なんですね。それは、まずグループを作って、数名のグループで学習中に子どもたちがよく話し合うということ、それで相手を認める、多様性を許しつつお互い高まるということを生徒指導でもオッケーとして、それが学習指導にも結び付いているということで、その方策については四中もやってるし、川南の小学校が今実践をしていて、そこで育てきたものを中学校でもさらに育てようというようなことでもう始まっているわけです。2年目か、3年目になります。そういうような意味で自主性、それを三中学区で同じようにやってくださいというふうに私どもの方からは言わない。どうやって学力を高めるかということの作戦については、かなり自由度を高くして各中学校区で考えて頂くというようなレベルです。

### (丸山市長)

今話を聞くと、多分に先生方の意識というか、特に校長先生の経営力というのが適当なのかわかりませんが、その資質に追うところがかなり出てくる、校長先生が変わったらガラッとまた対応が変わったりということもあり得るんだろうなと、経験則から言うと高等学校だとよくありますよね。校長先生が変わると学校の学習指導の方針がガラッと変わって、進学率が伸びる時もあれば落ちる時もあるということもありますので、そういう危惧は常に持ちつつ運営をしていくということになるんでしょうが、ただ校長先生の資質を高めるための組織というのにも必要なんだろうな、それを市の教育委員会で持つというのはなかなか難しいでしょうから、やはり県の方をお願いをしたりとかになるんだろうなとは思いますが



れども、問題はもう一つ一番市長部局にて気になるのは、四中の例がありましたけれども、いつまでも離れた形での小中一貫でやっていけないのではないかなと思います。要するに、一定程度どの学校も改築の時期って来ますよね。その時には、やはり一体型でというふうなことが当然出てくると思うんですけど、それは酒田市の各中学校で一体型を試行することはその時点で中学校区を中心として考えていくという理解でいいんですかね。

### (村上教育長)

その通りですね。今から一体型を目標にしてやっていくということはゴールにはしていないということはハッキリしています。ただ他の自治体で、人口減少で中学校も1つになり、小学校も1つになって、施設もなんとか一体化していきたいというふうに、人口減少からくる統合の動きがあって、むしろ地方ではそのために小中一貫という内容、やり方をセットにして施設も一体化してきたというのが、しばしば起きているのが現状だと思うんです。でも、今酒田市で私たちがやろうとしていることは、将来そうなるからそれをゴールにしてやりましょうというのではなくて、しかしながらそれを拒むものでもなくて、もし本当に子どもたちがどんどん減って行って、小学校も統合して、小中隣接させたいとか、あるいは義務教育学校を作ろうとかいうような動きになった時には、うまく今までの小中一貫教育の研究が非常にうまく活かされる形で一体化すればいい。けれどもそれを目的にしてしまっている訳ではなくて、教育の質を保証、高めていくのを第1位目的に考えた方が、私は将来の酒田にはいいと思います。外部からの条件でさせられるというのではなくて、今のこの課題をどう捉えるかを研究している先生方であれば、もし施設が一体になった時に非常にうまくいく、もしそういう時期が来るとすればですね。それが視野にないというわけではありませんけれども、今は教育の質を高めるということに早くから着手したいというのがあります。

### (渡部委員)

私の意見を1つ。先ほど、神田委員の方から中一ギャップという言葉がありましたけれども、この今本市のQ-Uアンケートとか、NRTの結果からも中学校に上がってから集団に適應できない生徒が増えるとか、成績が少し落ちていくというそういうものに対する小中一貫も教育というのは非常に有効かなと思う一方で、小1と中3というのは発達段階でかなり差があるので、同じ活動を行うというふうには相当気配りが必要だったりとか、9年間同じ学校であるという事で、人間関係が固定しやすくなるので、親の立場からすると1度仲間外れだとかいじめにあうと、立ち直るチャンスが得られなくなる心配とかも少しあるので、そういったマイナス面も十分注意をして対応していく必要があるのかなと思います。もう1点、親の立場、企業の立場からすると、小中一貫教育でのキャリア教育というところの推進にも私自身期待をしているところです。酒田の経済のこれからの目標というのは、人手不足で将来の人口減少でさらに人手不足が予想されるので、やはり若者たちの地元定着、地域経済これから維持、発展させていくためには非常に大切な要素であると思っております。子どもたちのアンケートとか聞くと、酒田を好きだけど、就職したい企業はないだとか、よく聞

くコメントなんですけれども、実際は残りたい、Uターンしたいと思っている子どもたちもたくさんいるので、地元の企業のことだったり、地域のことをもっともっと知ってもらいたいという面が一つと、キャリア教育とは9年間系統的な教育を小中一貫でできるので、地域の方々とか、地域の企業連携を図ることで、職業教育という要素だけではなくて、子どもたちのお手本となるような大人が、やりがいを持って楽しんでいるかっこいい大人、生き方を子どもたちに見せられるようなそういう教育ができたらいいのではないかなと思うところです。

### (丸山市長)

今日の資料でも、一番最後にキャリア教育の推進の具体例が挙がってますけれども、小中一貫教育と、それからさっき言ってましたコミュニティスクールの関係とか、あとは域内、域外も含めてですけれども企業の関わりとか、それはどのように取り込んでもそれは校長先生の差配ひとつという理解でよろしいですか。

### (村上教育長)

今のところこちらの方から、例えばキャリア教育は全部の中学校区でやってくださいとか、ふるさと教育は絶対手を付けてくださいとか、そういうふうな指示を今の時点で教育委員会の方から願いますというのは今のところないです。今、各小学校、中学校でキャリア教育をしたかったならば予算が付きますという制度にしてるわけです。学校采配だけで自由度の高いものをやめて、今新たな事業としてはキャリア教育を推進するための事業を起こしておりまして、それで数十万の予算をどの学校でも手を挙げれば付けられるわけです。そうすると、PTAの方の親御さんと呼んで、その方の仕事、例えばエプソンさんと呼ぶだとか、印刷屋さんだったり、造園だったり、そのキャリアで仕事をする意味を、呼ぼうと思えば呼べる。ただし、小学校の時代にどういうキャリア教育を受けてきたかというのは、中学校であまり知らないし、系統立てようとは思っていない。突然プロ野球選手がボンッと来たりする。系統的にやっていくとすれば、やはり効果は伸びる。小学校のうちにこんな人に出会わせたいというようなことをプログラムしていくメニューを立てればいい、効果が上がるということとは予想できる。

### (丸山市長)

今、キャリア教育に取り組む補助金を出すというのは、本当はそういう姿でいいのだろうかと思うんですよね。要するに、金で釣ってるというところがあるわけですよね。そうではないんじゃないか教育とは、と私は思うんですよね。ただ、今キャリア教育とか地元に残るということを人口減少対策としてこの地域に不可欠だとすれば、やはり教育委員会としてこれだけはやってもらわなければいけないといういわゆる指針を示すべきではないかなと。したがって、小中一貫教育の校長先生はその意図のもとでそれなりの知恵を働かせてカリキュラムを組んでいければ、授業の中身を組み立てるということをやっていかない限り、補助金

が切れたらやめればいいのかというそう世界というのは、どうも教育ではちょっと違うんじゃないかなという思いがどうしてもあるものですから、かつてと違ってこれからは子どもたちにとって何を教えなきゃいけないかというのを、教育委員会が手本とは言い過ぎかもしれないけれども、指針は示すべきではないかなという思いがどうしてもあって、今はそういうのではなくて自主的に自ら考えて自ら何を学ぶかとか考える時代だと言われれば、確かにその通りなんでしょうけれども、しかしながら一見聞こえはいいんですが、じゃあ考えたくない人は何も考えないわけですよ。これも自由だということ。それではこの地域を保っていけなくなるような気がするものですから、そういう面では学校教育も社会教育も同じなんです。意図的な道筋を示してあげることが教育委員会としては必要なのではないかと常にどうしても頭の片隅にあるものですから、それが先ほど神田先生から言われた中学校長が主体性を持ってという事について、その主体性を持ってもらうためにはある意味その地域の子どもたちに対する教育の在り方だとか、あるいは共有していないと本当の意味で公平な教育ってできないような気がするんですよ。そのところが私も古い人間なものだから、本当に大丈夫かなという面があるんですね。

#### (神田委員)

それはやはり教育振興基本計画のような酒田市としての基本的な教育の考え方の中で謳われたいけないと思うんです。今回、今のところでは手挙げ方式で、手を挙げた場合にお金を付けますよという形にしていますけれども、今度あまり義務化をしてしまいますと、それをやるにはお金が必要ですよという話になって、どこからお金かということになってしまうと思うので、実際問題人を呼ぶとなるとお金がかかるわけですよ。他のやり方で、例えば大学で行われてる文部科学省がやっているのは、自主的な取組みを求めますよ、ただその自主的というのは中教審とか文部科学省が一定の方向性を示してそれに乗っかって取組みをしているかどうかについて報告をしてもらって、ある一定数以上の取組みをしている場合には、例えば補助金を出しますよとか、取組みに対してご褒美をあげるようなそういう仕組みでの運用というのものもあるわけです。今回のキャリア教育推進事業ということであると、それはお金を付けますよということはキャリア教育にしか使えないわけですよ、特定の事業でありますから。そうでなくて、様々な自発的な取組み、ある程度方向性については教育委員会が示したとして、それに取り組んでいる場合にはお金を付けますよ。そのお金は何に使っても構いませんよという形で、また更に新しい取組みができるようにすると、ある程度自由度の高いお金の付け方をするとするのも次の取組みには繋がっていくのかなと思います。

#### (浅井委員)

キャリア教育というのは、どこの学校でもちゃんと計画を作ってある程度やっていると思うんですよ。環境教育とか消費者教育とか様々ないっぱいあるわけですよ。その中の一つとしてキャリア教育という全体計画をちゃんと作りながらもやってるわけです。さらに教育委員会としては、お金の必要な部分については学校の方に補助しますよというようなことで、

もっと大々的に中身のあるようなものにお金を出しますよ、ただそれぞれの学校ではちゃんとある程度のキャリア教育というのはどこでもやっているというふうにして捉えてダメなんですか。

### (村上教育長)

その通りなんです、逆にお金が付けられなかった場合は、じゃあその市ではキャリア教育ができないのかというのはとても怖い事です。そういう考え方ではなくて、お金によって左右されるというよりは、やりたい人を応援する。基本形はキャリア教育は位置づけられているので、どこの学校でもやっているということなんですけれども、やはりゲスト的にこういう人を入れたいとか、継続的にやりたいとかということになってきますと、一定程度のお金はやはり必要なかなというふうな応援体制ということにもなると思います。でも、市長が先にそしてお話なされたように、どういう内容を市全体として共通実践項目とするかということについて、もっとはっきりとしたものがあつた方がいいんじゃないかというご意見は十分今後も検討していきたいというふうに思っております。今は、こちらの説明に戻りますけれども、一番の課題は、生徒指導と学力なんです。まずここから頼みたい。これは教育委員会は外す気はないです。ここが、もっとも大きな課題だという課題意識が強いために、今でもそれぞれやってるんですけれども更により良い教育に向かうための大きな課題なので、ここだけは外せないなというところまでは来てるんですけど、具体的な取組み方法まで指定できるかどうかは検討を今後も重ねます。

### (岩間委員)

なぜこれをするのはというところの目的、WHYの部分、やはりこのより良い教育を実践するためにというところにあるというところを、どんなやり方をしてもいいし、ただ酒田市はこれからは小中一貫という考え方に基づいていろいろ人口減少なり、あとからいろいろな問題が出てきて校舎を一緒にしなきゃいけない時にも、長期的に考えてやった結果あとで楽になるというか。みんなでなんでこういうふうにするのかということここだけじゃなくて、やはり親御さんたちに対してもなぜ小中一貫をするのかという部分で、資料にもある「小・中・家庭の協働」によるというところ、やはり子どもたちに学力をつけて慎ましくいい人になってもらいたいというのは、誰もが親として思う訳ですから、そのために理解して欲しいような説明もしっかりとやっていければ結果丸く収まるのかなと思います。本当に、学力は学びたくて力のある子はどんどん伸びて進学校に行ったり、酒田を離れて行ったり、中高一貫校に行ったり選択肢はあるだろうけれども、やはり底上げを図るために小中一貫ってとっても肝だな、誰も見捨てないというような、ちょっと躓いてもグループの中で授業の中でわからないところは先生に聞かずとも隣の子がそっと教えてくれたりとか、そうしなさいと言われなくても自然とそうできるようなクラス作りだとかがいいのかなと思います。テレビで、秋田県がなぜ学力が急に伸びたかというのがあって、ぐるぐるノートというのがあって、同じ班の中で家庭学習のノートを普通は1人1冊ですけど、それが班の皆で今日私

書いてきたのを次は隣の子に回して、皆がどういう風に学習をしているのかその班の中で共有をして、こうやるといいんだなというのを、見本になるノートは置いてあったりする訳ですけれども、具体的に日常的にレベルによって中身は違うと思いますけれども、ちょっとしたヒントを日々の家庭学習の中でやって、皆で回すぐるぐるノートと呼ばれる家庭学習がすごく伸びたというのを聞いて、酒田市でも小中一貫の中でそういった取組みをしながら、ずっと定着して頭のいい子に引っ張られながら、ちょっと躓いている子も一緒に学習する機会があると面白いのかなと思いました。酒田市の方針として、しっかりとやり遂げて頂ければ未来はあるのかなと思います。

### (丸山市長)

今の話の中でも参考になるものはあったんですけども、進めるにあたってやはり保護者もそうですけれども保護者以外の方々にもどうやって説明をするんだろうなというところが、教育振興の基本計画に盛り込むにあたって、その説明をどうやって広くしていくかというところが、要するに教育委員会とか学校関係者だけがわかってても意味がないような気がするんですよね。県の中高一貫校の話というのはまさにそのところがあれなんだと思いますが、本当にそれが地域の活力、生徒指導にとって効果があるんだという事をどうやって理解してもらうかというところが手を抜けないんだろうなと思うので、そういう面では31年リード校で、教育振興基本計画が32年度からで、どうやってしっかり説明をしていくのかなと、しかも先ほど神田委員が言った中学校区で主体性を持つてというところに対する地域の人たち、あるいはその地域外の人たち、あそこの中学校区は良い教育をしていると、うちもそれやりたいよというときに、それに応える制度になってないとすると、公平じゃないと思うんですよね。そこをどうやって克服するかも含めてですけど、やはり義務教育なのでこら辺はしっかり説明していかないとまずいんだろうなと思います。あと、学力と生徒指導、生活指導。それはその通りだと思います。秋田県は、小中一貫教育じゃなくても学力の面では優秀なところ。この地域の学力が上がっていない、あるいは生徒指導上課題があるかどうかというのは他と比較したデータがないのでわからないですけれども、そういう問題意識についてこの地域でどう分析していくのか。特に学力はわかりやすい話ですけども、学力不足の原因はなんなのか、教員の問題か、親の責任か、地域の風土に問題があるのかわからないですけれども、原因がしっかりわからなくて小中一貫教育をしたから上がるのかというのもそう単純でもないんだろうなという気もあるものですから、そこはいずれにしてもこれから進めるにあたって十分分析検討してもらって進めて頂ければありがたいなと感じました。

### (浅井委員)

渡部委員から出た酒田市においてはキャリア教育というのをもっと大切にしていかなければならないというような話で市長も同感だというようなことなんですけれども、そういう話をこの会でもっと議論して、教育大綱の方に入れられれば良かったと今ちょっと思ったところでした。あと、小中一貫の件ですけども、なぜ今小中一貫を酒田市でやらなければなら

ないのかといったような疑問というのがおそらく学校現場の中であるんだろうなと思うんですよね。校長先生とか教頭先生とか管理職の方はある程度理解してくれるとは思いますが、一般の先生方にとってはなぜ今こんなに学校が大変忙しいときに、またその研究をするみたいなそんな意識がおそらく一般の先生方には当然あるんだろうなと思います。ですから、そこら辺をどんなふうにして小中一貫の大切さ、これをやったら子どもたちの学力とか生徒指導面で良い影響が出てくるんだという事を、理解してもらおうかというようなことを各学校の校長先生に任せるだけではなくて、是非市教委全体として取り組んで行って欲しいなと思います。去年も京都から有名な先生をお招きして、管理職の先生方と我々も講演会お聞きしましたがけれども、そういったようなことを岩間委員がおっしゃったようにして先生方だけではなくて、広く一般の方とか保護者とか地域の方々にもそういったふうな講演会の場を開いて、是非啓蒙を図っていくというのも大事なのかなと思います。ですから、一般の先生方の啓蒙をどんなふうに行っていくかというのを市としても各学校任せにしないで、市教委としてもその辺を考えてほしいなと一つ目思います。それから二つ目としては、神田委員からも出ましたが小中一貫教育の形態ですけれども、校舎分離型とか校舎隣接型とか一体型とか様々あるわけです。山形県でやっている小中一貫とは、今まですべてが校舎一体型なんですよね。小と中が一緒になってるものですから先生方の小中間の動きも良いし、対応もすぐできるわけですよね。子どもたちの交流活動なんかもどんどん行けますので、むしろ一体にしてしまった方が効率が良いわけですよね。そのようなメリットが多分あるんですよね。ところが分離型にしてしまいますと、一つの中学校に例えば会議があるので先生方集まらなるとなると、年一回では無理なので、これから教育課程を手を付けていこうとなった時には何回も集まらないといけないと思うし、それから校長部会とか教頭部会とか生徒指導部会とかたぶん立ち上がると思うんですけれども、そういった部会ごとに集まったりとか、それから子どもたちも交流しますので、子どもたちも小から中に行ったり、中が小に来たりとか、また小と小の交流などもあると思うんです。そういったことを考えると、やはり膨大なエネルギーといえますか、そのためにいちいち学習バスの手配をしなければいけないとか、いろいろなことを考えるとなかなか校舎分離型でもって小中一貫をやっていくというのは、かなり難しいとは思いますが。でも、3年前我々教育委員が三鷹市の教育委員会と三鷹五小に視察に行かせて頂きました。その時三鷹では全部の学校で分離型でやってるんですよね。大変だとは仰ってましたけれども、でもやりながら成果を上げているわけですよね。そういった方向を是非大変でしようけれども酒田市の教育委員会も、酒田市もめざして欲しいなとそんなことを思います。あと、神田委員が仰ってましたけれども、交流授業後の後補充の教員の確保とか、一貫のコーディネーターの教員の配置などについては、やはり学校任せにしないで是非教育委員会としても考えていけない問題なのかなと思いました。それから三つ目としては、実は教育長が触れていましたけれども、四中の話出てましたが、四中が小中一貫とは思わないですが、大々的な教育をやってるんですよね。それはなぜかということ、昔酒田市の教育委員会が委嘱してきたんです。私の記憶によれば、平成3年ごろから10年くらいかけて酒田二中から始まってずっと学校ごとに指定して行って、最後に一中、五中学区で終わっ

たんです。そういった小中一貫教育をやってくださいという委嘱を市教委でお願いして、各学校とも全部やってるんです。一通り回ってあと終わったんです。終わるとどうなったかという、さっき市長が仰ったように校長が変わると学校が変わるみたいに、だんだんと年数も立ちますので下火になってきてしまったんです。ところが、四中はある程度残ってるんです。これは、委嘱が終わった後に四中学区の先生方が、このままでは四中ダメだとか、小学校の先生方が四中の悪口言ったりだとか、逆に四中の先生方が小学校を怒ったりだとかいう雰囲気があったわけです。それで、校長先生方自分たちで一貫を再構築したんです。これは、市からの委嘱とかは関係なく自分たちが必要に迫られてこうしないといけないという事で始めたのが四中なんです。それも何年もやってだんだん下火になるんですけども、でも四中学区にはそういった一貫の風土のようなものが息づいているんです。それが今となってもまだ脈々と財産が残ってるという感じなんだと思うんです。だから、そういったふうにしてこれから酒田市も一貫に取り組んだ時に、10年経ったらどこの学校も元の木阿弥で、頑張った学校には残りますみたいなことではなくて、ずっと永続的に小中一貫の教育が残るような形に是非して行って欲しいなと思います。そのうちに、人口減少等でもって校舎一体型の小中一貫校を創らざるを得なくなるかもしれません。その時にうまく移行できるわけです。だから、研究終わって終わりということではなくて、ずっとその学区に残るような小中一貫教育を是非残すような手立てをして行って欲しいなという思いです。最後、何十年前やっていたのも一応小中一貫教育と銘打ってやっていました。でも、今の文部省の定義から言うと、小中連携なんです。連携していろんなことをやってるんです。小中一貫となると、子ども像を共有するとか教育課程を9年間見通すとか、あとは系統的な教育とかそこまで求められるわけです。だから、そこを連携ではなくて一貫なんだという意識を現場の先生方から持ってもらって、一貫までもって行くんだということを頭に置きながら是非研究を進めてもらえればありがたいと思います。

### (丸山市長)

今、浅井委員のお話を聞いて自分としても頭の整理ができました。是非、この教育振興基本計画の中にロードマップのようなものをしっかり載せてもらいたいなと思います。研究委嘱してそれでまた終わって、研究だけして終わったということだと今仰ったようになり兼ねないので、これやるんだということをやはり酒田市教育委員会の意志として明確に決めて頂いて、確かに一貫教育と連携教育は違うんだという捉え方を私もさせて頂きましたけれども、小中一貫教育を進めるにあたっては一体型だろうと併設型だろうとそれぞれのありようがあると思うので、いずれにしても一貫教育なるものが今の酒田の教育にとって必要だとしっかり謳って頂いて、きちっと年次計画で前に進むような明確な位置づけをして頂けるとありがたいなと思います。高校野球の映像見ていたら小中高一貫教育をやっている高校があって、私立ですけども食事も中学生と小学校1年生と一緒に給食を食べていたり、中学生が登校の時小学生が来るとおはようと出迎えたり、いろいろやっているんです。なかなか面白いなと思って、私立だったらそういうことができるだろうけど、公立の場合はなかなか厳しい

ところもありますけど、でも小中一貫教育というのはそういうことなんだと。確かに私も一体の方がいいんじゃないかと思えますけれど、公益大をつくるときも学部と大学院を分ける時に、先生たちの移動だとか考えたらそんな非効率な設置の仕方はおかしいでしょと議論しましたが、もろもろの事情があってあのように痛み分けのようになってます。本当からいうと、やはり一貫教育するなら同じ建物にあった方が、先生の移動にしてもなにかの打ち合わせするにしても、それこそ移動で学習バスを使わなくてもいいだけ財政的にも負担は楽です。その方が効率的なような気はしますけれども、でも一気にそれはできないので、そこら辺のところは中、長期の視点でもって一貫教育の酒田市ならではのロードマップを教育振興基本計画の中で実現してもらえればいいかなと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、この件に関する意見交換については以上とし、次の協議事項である「本市のスポーツの振興」に移りたいと思います。スポーツ振興課長から説明をお願い致します。

## 富樫スポーツ振興課長が資料2を説明

### (丸山市長)

具体的にいろんなことをスポーツ振興課で取り組むにあたって、是非参考になる意見を聞かせてくださいという課長の話でしたので、何かいいアイデアを含めていろいろ教えて頂ければと思います。市長部局の方から言うと、資料2枚目にいろいろ体育施設があるんですが、こういった施設をどうしたらいいかということ、人口もどんどん減ってきている中で、ほとんど使っていないところもあるし、かといって特に冬場のことを考えた時に、大きなスポーツ行事も展開できるような施設も欲しい。特にアランマーレがファーストディビジョンというんですか、上のランクに上がって試合があった時に観客数も一定程度そろえなければいけないとなると、地元としてはなんとか応援したいなという気持ちもありますし、悩ましい問題をスポーツ施設、あるいはスポーツ振興については抱えてるなという思いでありましたので、そういう分野も含めてですけれどもご意見を頂ければと思います。

### (岩間委員)

いろいろな資料を頂きながら自分なりに思ったことは、このスポーツ振興計画の後の方にアンケート結果も載せて頂きました。やはり、やってる人はやってるけど、やってない人はやってなくて、スポーツやってる方、積極的な方は体育館施設の不足を感じてらっしゃって、なおかつ大きな大会をするときは市営体育館とちょっとだんだん赤い印があるように、体育施設全部がほぼ赤に近いかオレンジに近いかというような感じに見て取ったので、希望ホールが新しく建ち、市役所が建ち、次にお金をかけるのは体育施設なのかなと思ったところです。市町村合併で、どうしてもカバーしなければいけない建物があったので、広範囲になってしまって、旧町にあった方が良いとは思いますが、これからの人口が減少する中で、



どこからも行きやすい場所にそれなりの大きい大会等、パラリンピックとか障がい者でも誰にでも利用しやすいようなものということで、そのような機能も備えた大きなものもあって、なおかつその大きな体育館の施設の中には小さな小分けができるスペースだとか、そこに通っているいろいろなトレーニングをしたり、スポーツクラブのサークル活動ができるような工夫をして、みんなが募るようなものがあつたらいいのかなと個人的には思った次第です。やはり、財源に限りがあるのでみんなが言うように今まであつた物がなくなる、なおかつ良くなつたら補修して欲しいというのは思ってますけれども、実際問題全部に全部お金をかけるわけにもいかないですし、市民の方々に対してもそこにある施設の意味だとか、これからそこにあつたら利用しますかということも問いかけて、今まであつたけれどもこれからのためになくする勇気も必要なのかなと思います。あとは、運動している方のアンケートの中で面白いと思ったものは、計画の中の28ページにあるもので、最近どんなスポーツをしましたかというのがあって、簡単なのはジョギングとかウォーキングだったりなんですが、その中に筋トレ、ラジオ体操、ストレッチもその運動の一つに入れているというところで、そういったところは地域のコミセンなどで集って、高齢者の方も体を動かす機会、そして教室などを開いたり、あとは運動する理由付けとして意識の高い方は一人でも歩いたり走ったりしますが、だれか一緒にやる人がいれば運動するという方は地域のコミュニティは大きな集まる場所や、理由付け、ご近所との運動を通したコミュニティの場として活用できるだろうし、運動する理由としては健康の保持、増進の他にもストレス解消、気晴らし、仲間との交流という意味でも、決してその一般の市民に対しては競技性を高めるというよりは日頃の自分のために仲間とのコミュニケーションをとるために、いい地域の使い方をして頂いて、細かい部分と大きい施設としてお金をかけるべきところは市長に考えて頂いて、大きな国際大会なども開けるような、みんなが納得するようなお金をかけて、それなりの利用料を払って頂くということで進んで行つたらいいかなと思います。

#### (渡部委員)

まず、最初のスポーツの振興についてということで、自分自身のことについて話します。昨年の秋ぐらいからジョギングを始めまして、なぜかという歳重ねるごとにメタボがだんだん進んでいるので、そういう目的でジョギングをしています。正直、今減量の効果はみられないんですが、半年たった今でも週2回ぐらいのジョギングは継続してまして、体の調子は非常に良くなったなと自分では思います。この長続きしている要因というのは、楽しみながらやれてるかなというところが非常に強いんですけども、なぜかという一人じゃなくて気の合う仲間とランニングクラブというのを結成しまして、今では自分たちでデザインしたTシャツを作って、背中に酒田の大きい文字を入れてマラソン大会に出ようという目標を持ちながらみんなで盛り上がっているところなんですけれども、スポーツって上達するには厳しい練習が必要だと思うんですけども、継続するにはいかに楽しむかというところが非常に大きな要素かなと私自身は今思っています。二つ目は私の地域のことですが、体育施設とはちょっと意味合いが違うかもしれないんですけども、私の家の前に公園があります。

小学生のころというのは、暗くなるまでそこで野球をやったり、日中高齢者がそこでゲートボールをしていたんですけれども、Uターンしてきた15年くらい前に、その時は公園に子どもたちはいなかったんです。ゲームをして割とインドアで、高齢者もゲートボールがあまり見えなくなって、公園が少し閑散としていた状況がありました。それから、5年くらいが経って今から10年くらい前ですが、地元自治体から声が上がって市の予算「手作り公園事業」となりまして、公園を芝生化しました。うちの前の公園は割と大きな公園なので材料費等がかかったんですが、なぜかという高齢者で流行っていたグランドゴルフを自分たちでやりたいという思いからそうなりまして、一部目の前に私の会社もあったので多少お手伝いはしましたけれども、子どもから高齢者まで自治会みんなで整備をしまして、芝生化した公園にはその後日中はグランドゴルフをする高齢者がどんどん集まってきましたし、夕方になると学校帰りの子どもたちがサッカーとか野球を楽しんだり、公園に戻ってきたんです。常に大変と思われがち芝生の管理というところなんです、その10年間うちの方でもほとんど何もお手伝いはしてなくて、なぜかという高齢者の方はグランドゴルフで球の転がりを良くするためにしょっちゅう芝を刈るんです。子どもたちは、週末になると子供会などで草むしりをして、みんなで楽しみながら作業をして維持するという形で、10年以上たった今でも割と良い状態が保ってます。自分たちが楽しむ施設なので、やらされて作業するというよりも実際に楽しみながら作業しているという感じがあります。スポーツを通した健康増進というところもありますけれども、高齢者と子どもたちが繋がるという地域コミュニティが少し維持されているのかなと思います。ただ、冬になると積雪とか低温で、なかなか出づらくなって折角の運動の習慣も、冬になると一回途切れてしまうというところが雪国だけに難しい問題かもしれないので、冬期間のスポーツ活動というのは大きな課題だと思いますし、冬期間の室内の施設というのはやはり大切な雪国の場合は思います。最後に、体育施設についてですけれども、資料でわかるとおり市内各施設が点在しておりますけれども、今ある施設がそのまま更新されることが確かに理想かもしれませんが、老朽化だったり耐震の問題だったり、建て替え、人口減少とか競技人口の減少も今後予想されるので、やはり施設の数の適正化はある程度必要かなと思います。その場合には、市の施設という事だけではなくて、県の施設だったり、民間の施設だったり、閉校になった学校も含めた学校の施設なども考慮して、適正な施設の配置をこれから考えなければならぬかなと思います。

### (丸山市長)

実は、体育施設を考える時に冬も使えるログ型の施設も欲しいということと、もう一つ内部で議論していたのは小学校のグランドも含めて芝生化をやれないだろうかといった時に、種を撒いて芝生を生やすのは簡単なんですけれども、維持メンテナンス、どういう体制でメンテナンスをやっていくか、全部市がやるとなると凄いお金かかるものですから、これが大きな課題となって実は今回の予算の中で踏み切れなかった。検討はしたんですけど、特に小学校あたりだとPTAなりスポーツ少年団なり地域の協力が得られれば、維持管理はなんとかできるのではないかと、種を撒いて張るくらいの予算はモデル的に付けてもいいかと思っ

たんですけれども、それはやってないんです。これから考えていく必要があるかなと思います。土と芝生では全然違いますよね。寝っ転がっただけでも気持ちいいですよ。これから考えていかなきゃいけない時代なのかなというふうな思いを持って今聞かせて頂きました。ありがとうございました。

### (神田委員)

私は、改めてスポーツ振興計画を見る中で難しいなと感じたのはスポーツ実施率で、成年の週1回以上のスポーツ実施率を、平成29年度は31%のところを60%に上げるというのはなかなか大変だろうなというふうに考えておりました。その中で、アンケートの結果等を見ても、運動不足を感じてる方は8割はいますけれども、実際には何もしていない方も5割くらいいるということで、何をしたらいいだろうなということを考えました。基本的に何か行動しようとする場合には、動機が必要になります。動機に合わせて誘因というものがなくて、例えばお腹が減った、何か食べたいという動機があった時に食べ物がある。食べ物が誘因で、何か食べたいということで両方がセットになった時に実際に食べるという行動が出てくるわけです。ここでの誘因というのは、例えば施設があるとか、スポーツ教室があるとか、仲間がいるとか、そういうことが誘因になるんでしょうし、動機ですと運動不足だから何とかしなくちゃいけないというのも動機になるかもしれないし、健康になりたいというのもあるかもしれないけれども、一番いいのは体を動かすことそのものが楽しいからだから運動したいんだ、スポーツをしたいんだという先程渡部委員からありましたような楽しみというのが動機としては一番強いんです。ただ、誰もがスポーツをすることに対して楽しみを感じるかというと、おそらくそこまではいかないと思うんです。実際にやってみたら楽しいということに繋がっていくのかもしれないですけども、なかなか皆さんお忙しい中でやる時間を確保して走ろうとか繋がっていかないのが現状なんだろうと思います。動機付けを高めていくためには、よくあるインセンティブです。何かこれをするメリットがあるからやろうとかいうようなそういうやり方もあるので、最近宮城の方の大学にいた時に見たものとして、階段を上って1階上がると、例えば2階から3階に上がると2.8キロカロリー消費しました。さらに4階まで上がると、5.0キロカロリー消費しました。というように、具体的に行った活動の成果が見えるようにしたらいいんです。先程、渡部委員のジョギングの話ですと、なかなか成果が出ないんですというような話もありましたけれども、運動の成果はすぐには出てこないんですよ。完璧な成果として、例えば今の階段の例ではないですけども、ウォーキングのコースを作って200mくらい刻んで、今何メートル、今何メートルとわかればこれくらいの距離を歩くことができるようになったとか、一周歩いて1キロ歩いたら何キロカロリー消費しましたとか、そういったものが目に見えると自分の中での満足感というものを得ることができるのではないかと。そういったものをただ貼るだけであればそれほどお金をかけないでできることなので、簡単なことから本人にとってのメリットに繋がるといえるような仕掛けを考えるとこれも良いのかなと思いました。あとは、私が普段自転車に乗ってるからなんですけれども、例えば通勤で自転車を使いましょうとか、隙間の時間とか

日常的に必ずやらなければいけないことの一部分をスポーツに代替するというような、買い物行くときに歩きましょうとか、通勤する時に自転車を使いましょうとかそういった置き換えをすることもスポーツに繋がっていくと思うので、身近なところで簡単にできることをスモールステップで積み上げていくようなそういうやり方の提案というのもあるのかなと感じました。あとは、施設に関する話については、岩間委員と渡部委員の考え方と同じで、やはり今受益者利用料の受益者負担というところも改めて見直そうとしている中で、老朽化が進んだ施設の改修を進めていくというのは、更に受益者負担が高まってしまって、なかなか難しいものもあるのかなというふうに思いますので、利用状況の実態ということを踏まえた上で一定程度の整備をしていくというのはこれは仕方ない事だと思います。ただ、お金がかかるからできませんという形で言うてしまうと夢がない話になってしまいますので、それはそれとしながらもこれまでも出てきたようなスポーツツーリズムなども進めていくためにもっと大きなものを作って、大きな施設で市民の方も利用しやすいものをつくるんだというのを合わせて整備していく必要があるのかなと感じました。

#### (丸山市長)

大阪へ行った時も、駅が2階にある橋上駅舎に階段毎に何段行くと何とかと書いてあったのがありましたので、これは面白いなと思ってみましたけれども、確かにそういうのもスポーツ振興課長から考えてもらいましょう。光ヶ丘のジョギングコース、何メートル走ると松の木に立て看板がしてあって、何キロカロリー消費しましたとか。

#### (浅井委員)

施設については皆様方と同じですが、やはり県の施設とか民間の施設の利用とか、あと学校の体育館なんかも結構使っているんです。それから、コミセンなんかもスペースは狭いですが、そういった中でもいろんなところを出してくると結構かなりの量の場所があると思うんです。そういったことも考えながら見直しを行って頂ければなと思っております。それから、アランマーレなんですけど、広報で毎号毎号結構丁寧に書いてあるんですね。あれだけ宣伝、PRしてるのになんで応援には行かないんですよね。テレビなんかで観ると、観客の数が非常に少なくて可哀そうだな、行ってあげたい気持ちはあるんですけどもなかなかどうなのかなと思って、今回は1部に上がるとか上がらないとか去年と比べるとだんだんと成績が上がってきているという状況もあるので、そこをなんとか酒田市のチームとして応援できないのかなということですね。あと、モンテなどだと酒田市向けとかありますよね。割引になったりとかその時はそういった制度を設けて割引するからみんなで行きましょうとか、天童市役所などはモンテのユニフォーム着てますよね。教育委員会がアランマーレのユニフォーム着たりとか、もっともっとPRできるんじゃないかと思います。せっかくアランマーレ作ってもらったのに、酒田市も一生懸命応援しているのに、これがこのままなくなりましたということにはしたくないという思いがありますので、是非われわれ年寄りでも気軽に観戦に行けるような雰囲気とかも作ってもらえればと思います。それからもう一つは、運動嫌い

の件なんですけれども、学校体育の授業で週3時間やっていますよね。かなりの時間してる訳ですよね。その中で、何が一番学校体育の目的なのかという時に、技術や技能をうまくなるという事ではないんですよね。体力をつけるという事ももちろんあるんですけれども、一番のねらいとしては子どもたちが生涯に渡って運動とかスポーツをし続けていくといった意欲とか能力を養っていくのが学校体育の大きな役目なんです。そこら辺が、まだまだ学校の中では浸透してないのかなということをごく思います。だから、もっとスポーツや運動の楽しさを学校体育では教えていくべきだという考えを持っています。実は、スポーツ推進計画の方に、あまりその部分触れられてないんです。ですから、私としてはそこら辺は学教のお力を借りて、一緒に論議しながら学校体育はどんなふうにして持っていけばいいかということについてここに盛り込んでほしかったなという思いがあるんですけれども、その辺を是非次回はお願したいなと思います。小学校、中学校時代に運動嫌いになった子が大人になった時に、はたして自分からジョギングや運動をし始めるとは思えません。やはり、小学校、中学校時代に運動の楽しさとかスポーツをする喜びとかを味わったことがある子どもだと大人になっても年寄りになっても何かしてみたいという気持ちになってくるんだと思います。そんな意味では、小学校、中学校の体育というのは侮れないと思います。あともう一点は、小学校のスポ少があるわけですが、スポ少の加入率が年々減っているという話も聞きますが、スポ少も二極化して、入って試合に勝ってうまい子はどんどんスポ少にのめり込んでいきますよね。逆に、そういったものに入れられない子たちについては、どんどんスポ少に入らなくなってしまって、だんだん運動しなくなってしまう。その二極化が起こっているんだと思います。本当は、スポ少というのは子どもたちの心と体の健全育成なんです。決して、試合に勝つとかそういったことが目的ではないんです。昔、スポ少でもいろいろ計画して運動だけではなく、例えばお楽しみ会だったり楽しみながらも運動に引き込んでいくみたいな、そんなスポ少もあったんです。だから私は今のスポ少のあり方についてはどうも勝利至上主義になってきてしまっていて、子どもたちの運動とスポーツの二極化を生んでるし、そこら辺をある程度是正していかないといけないのかなと思ってるところでした。学校体育の楽しさと、それからスポ少のあり方を少し見直して頂くということも大事なことかなと思いました。

### (丸山市長)

スポーツ振興課と社会教育文化課を教育委員会に戻したというのは、なぜかという浅井委員が言った通りで、文化芸術も同じだと思ってんですけど、子どもの時に気軽に楽しくそういったものに接するというそういう習慣付けできていないと、ある日突然大人になった時に切り替われと言われても無理なんですよね。そういうことから教育委員会に位置付けてまずは学校教育の場でそういう場を増やしていこうという、スポーツの楽しさを味わえるような習慣付けをしていこうというねらいで移したんですけれども、先だって酒田市の美術館の理事長やってるものですから評議委員会だったんですが、やはり美術館、土門拳記念館もあるし、本間美術館もあります。なんで学校の生徒が来ないんだという意見が出ました。教育委員会でカリキュラムを組むわけではなくて、学校長の采配で学校経営なされるもので

すから、学校長がそういう意識にならないと誰も連れて来ないですよ。土曜日、日曜日に親御さんが連れて来のお子さんはそういったものに対する造詣は深くなるけれども、関心のない人はさっぱり来ない。スポーツも同じで、やはりそこは先生方、学校長の意識を変えて頂かないとダメなんじゃないかと思っています。本当に美術館でやってるもので良いものはいっぱいあるんですけれども、美術館の入館者数が少なくなっているという危機感を持ちつつも、もっと子どもたちにそういう機会を教えたらいいのになという思いがあって、そこを教育委員会からもしっかり特に校長先生あたりに意識付けして頂ければありがたいなという思いを持ったところでしたけれども、今回スポーツの話ありましたけれどもスポーツ振興計画の策定にあたって、学校教育課長に情報共有等あったんですか。

#### (学校教育課長)

そうですね。連携というかそういった話はありませんけれども、なかなか先ほど浅井委員からありました学校体育の部分だとか、そこまで連携取れてなかったなと思っています。

#### (丸山市長)

後で、教育振興基本計画の中にはこのスポーツだとか文化芸術に対する考え方というのは盛り込まれてくるわけですよ。せめて、その中でしっかりとした実験をして頂いて、学校教育でもスポーツをしっかり取り組むという事を宣言的に書き込んでもらえるとありがたいと思います。そんなことで、スポーツ振興については皆さんの意見を一方的に聞くだけになってしまって、最初の小中一貫教育も含めてまとめて教育長からどんな印象を持たれたか聞かせて頂いて、協議は閉じたいなと思います。

#### (村上教育長)

冒頭にも申し上げましたけれども、非常にこの2つの話題は大切な話題でしたので、各委員の皆さんと一緒に市長の方に様々な意見や情報提供できたという事は非常にありがたかったなと思います。小中一貫の方につきましては、今後の事を若干お話しします。一つは、そもそも小中一貫でめざしているということはどういう事なのかということの丁寧な説明、説明の前に自分たちの自覚というものがあるんですけれども、それが非常に大切であるし、それを問い続けそれを伝え続けていくという事は非常に重要だという事が大変よくわかりました。例えば、ねらいで学校生活における課題というのがあり、それから学級における課題というのがあるけれども、具体的な場面として子どもがどういうふうな状態からどういうふうな状態に高まって欲しいと思うのかという具体例をいくつかお示しできるような方法で、まずは教育関係、先ほど浅井委員からありましたが、通常の先生方にどう説明できるかということですね。そういったことが大事ですし、保護者の方、それから地域の皆さん方からなぜやろうとしているのか、どういうふうに変わろうとしているのかということの説明する仕方を十分検討してもらいたいと思います。二つ目は、今日お示しできなかったロードマップなんですけれども、吟味がまだ不十分ということで、今回お出しできませんでしたけれども、

市長からもありましたけれどもロードマップのあり方については今後示して参りたいと思いますが、浅井委員の方から一つはこれで終わりではなくてということが再三出てきて、あるいは人が変れば変わるじゃないとか、じゃあロードマップとしてはどういう姿をめざしてるのかということについて、もう少しやや長期的なスパンでご説明できるようにしたいと思います。スタートの時点での話は学校教育課長からあったんですけども、実は小中一貫は第1ステージ、第2ステージ、第3ステージというふうに私としては進化するイメージを持っているんです。今から第4ステージまで完璧に示すというのはちょっと難しいところがあるんですけども、将来的には当然少子化による影響というようなことは出てくるとは思うんですけども、そこまで描き切れるかわかりませんが、なぜステージが大切かといいますと、ここは重要なポイントなんですけれども、例えば一番最初にA中学校区が自分たちなりのやり方でスタートしたとします。仮に3年経ったとします。ちょっと遅れてB中学校区がまた3年くらいのスパンでやったとします。そうすると、A中学校区の取組みはずっと10年間同じ取組みをしていく学区なのかというところは私はそうは思っていないんです。なぜかというと、B中学校区の動きも見てると思います。C中学校区の動きもあると思うんです。だから不公平感ということより私は成果が上がることについては共有していく。ある意味似ていくという部分も十分あっていい。完全に揃えなくてもいいけれども、そうすると学校現場がこういうふうになっていたら良かった。こういうふうになりたいというようなことをお互いに共有できていった時には、私としては酒田市全体としてはある一定のものにしていくだろうな。そういう部分は実は期待しているところです。仮にキャリア教育でやってみたというところがA中学校区だとしますと、その取組みの良さはきっと伝染していくとか、広がっていくんじゃないかなと思います。そうするとA中学校はキャリア教育をやっててなんか不公平感があるのかなと最初思うかもしれませんが、必ずしもそういう訳ではない。キャリア教育は全部の学校でやっていますけれども、そのうまい取組みというものを共有できる場所があるかもしれないということです。私と学校教育課長が全国サミットに行って、ずっと車の中でたった一つ議論していたことが、そろえた方がいいか、そろえない方がいいかということです。この間行ってきたところは完全にそろえている実践だったんです。それで、助言者の「そろえなさい。」「そろえないと何が起こるかわからないので收拾つかなくなりますよ。」という助言だったんです。私と課長はどう思う、そろえるものとそろえないものとのこのバランスは、常に私たちにとっての悩みの種なんですけれども、完全な10ということにはならないと思います。ここは市長からもご意見あったように、重点的なものは何かということのをこれからもうちょっと吟味していきたいなど、それでまずは10年間のロードマップというようなものをできるだけ示すようにしたいなと思っております。この間、文教大学の増田先生が助言に来ました。一番最初に反応したのが「少子化による影響でやらざるを得なくてやってる市ではないですね。」ということを最初に確認されたんです。「違います。私どもは学校の内容、教育を良くしようとするためです。」「それはすごい。」と言われました。それはすごいですよ今時、という感じですね。そして、もう一つ褒められたことがあるんです。それが、小中学校で共有したい児童生徒像って難しく考えるとこんなことができあ

なことができるといふように抽象的に考えるかもしれませんが、増田先生は酒田市の科学賞、自分で勉強を追求していく姿こそ酒田市の勉強面における共通像だと言って構わないです。こんなにすごい取り組みをしている市はないとのことでした。一人の子どもが何年間も研究するわけです。先生から教えられたことを真面目にするだけではなくて、自分から求めて勉強していくわけです。あれを共通像にしたっていいですよということが一番最初の講演会でも言って頂いたんです。ですから、私は共通像を新しく作るとか、今までにないことをやれとかいうことではなくて、今酒田市の実態に合わせてしっかり前に進むというようにしていきたいなと今思っているところです。まだまだいろいろ課題は多いですけども、しっかり進められればなと思います。

スポーツにつきましては、今改めて知・徳・体のバランスということで、しかもそれぞれが別々のことではないということの認識を、学校も含めて考えていくように総合的なバランスを考えていかなきゃならないのかなと思いました。今、何回もお話出たように、生涯スポーツという視点から今スポーツは見直されていると思います。非常に年齢構成も変ってきているせいで、生涯スポーツの捉え方が一昔前の生涯スポーツのイメージではもうないんです。生きていく上で、生涯スポーツは必須のものになっているという捉え方なので、そういう視点で小さい時からお年寄りまで、どう自分の中にスポーツを活かしていくかということ、やはりもう一度推進計画を見ながら考えて、特に私が注目したいのはスポーツ推進委員の皆さんが地域でたくさん活躍しているんです。その方々が地域でどのようなスポーツの場を提供しているかということは極めて重要です。ものすごく大きな仕事をしているんですけども、この間ある時コミセンの会長に言ったら、最近エアロダンスしたい人がいっぱいいるんですけどもコミセンでは開かれない。いろいろ、話を聞いてみると、それで人が集まり、ちょっと体を動かし、楽しみにして、コミュニティができるというんです。私はそういう側面から組織的にもバックアップできるような体制ができればなというふうに思います。ですから、スポーツ施設は拠点的に、種目的にやれる部分と、だけれどもその考え方は一つあって、もう一つは身近なところで参加しやすい拠点を各地に作るという姿勢、これを進めていくことが私は生涯スポーツに直結する場の確保なのかなと思っております。大変今日は私にとって実りの濃い会でしたので感謝いたします。

### (丸山市長)

いろいろ勉強になってこれから小中一貫教育も含めてですけども、これから自分の頭の整理をして教育委員会と一緒に環境整備に頑張っていきたいなと思っております。引き続きよろしくお願い致します。新年度は、教育委員会のいわゆる部長級である教育次長を2人体制にさせていただきます。それは学校教育も社会教育、文化芸術の部分も酒田市の発展にとってなくてはならない重要な分野という考えから、人事配置を重視させていただきましたけれども、村上教育長を中心にこれからも教育行政、酒田市の個性をもっと前面に出して良い教育環境を整備できるように頑張っていきたいと思っておりますので、引き続き教育委員の皆様からはご支援を頂ければありがたいなと思っております。浅井委員、長い間ありがとうございました。



**(菅原教育部長)**

長時間にわたりありがとうございました。これをもちまして、平成30年度第3回酒田市総合教育会議を閉会致します。どうもありがとうございました。